

chaos theory

— まちの余白に小さくて大きな構築を —

衰退を迎えるまちにおいて空間は余りはじめており、管理の希薄化した土地や道では、住民によるまちの無秩序な占有化が為されている。それらは住民同士の緩やかなルールのもとに成立し、互いの関係を築いている。それらを引き出す新たな余白空間の在り方を提案する。



1970 造成によるまち並み形成

2020 まちの余白の増加

202X 調整装置の構築

20XX 景観全体の統一化

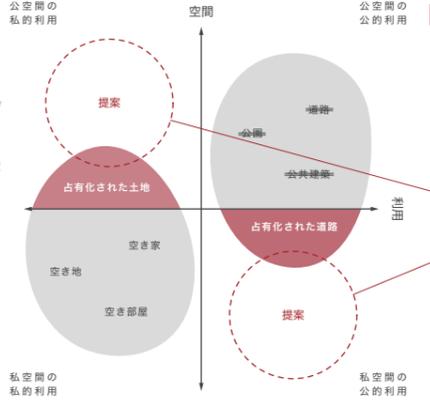


これからの公私空間利用

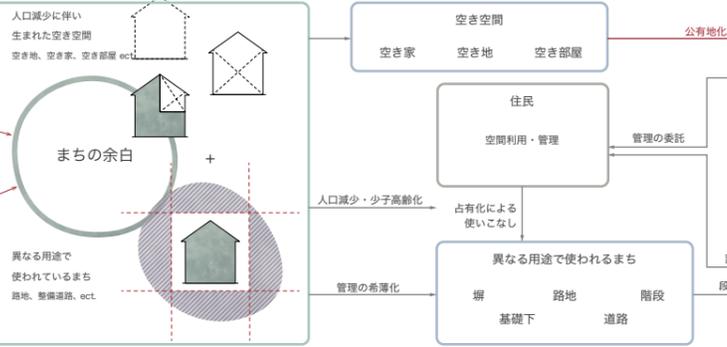
- chaos**
無秩序から生まれた行為
- ① まちは管理のために公私領域は明確化され、場の偶発性を制限してしまった。
 - ② 制約は場の自由性を奪い、利用目的が時代に合わなくなれば放置される。
 - ③ 管理の希薄化したまちに、周辺住民の占有による場の使いこなしの発生。
 - ④ それらは空間利用の基準線にゆらぎを与え、地域コミュニティを繋ぐ機能を果たす。

theory

建築的調整装置



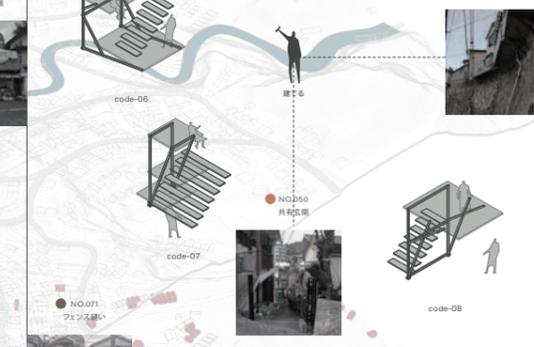
連携と公有地化



抽象化とデザインコード



公的空間の私的利用



減っていくまちと増える余白

